

## IV-8 日独地方都市の評価イメージの比較

岩手大学工学部 正会員 安藤 昭  
 岩手大学工学部 正会員 赤谷 隆一  
 岩手大学工学部 学生員 ○寺内 修一

## 1.はじめに

都市の評価イメージの比較に際しては、市民（人間集団）を通しての比較でなければならない。本研究は、このような観点にたって、日独都市の評価イメージの国際比較を行い、日本の都市の個性を浮き彫りにすることを目的としたものである。比較都市の選定に当たっては、かつて風土と文化の点で際だった特性を發揮し現在もその面影をとどめている都市の間の比較が望まれよう。ここでは、日本の城下町起源の都市盛岡<sup>1)</sup>と北欧中世起源の都市西ドイツ、ダルムシュタットを取りあげ比較している。

## 2.調査の方法

調査の内容は、表-1に示すとおりであり「大切にしたい景観」と「改善したい景観」の2つの点について調査したものである。調査の方法は、イメージ再生法のひとつである言語記述留置法によった。被験者の個人属性は、表-2に示すとおりである。

## 3.解析結果および考察

## (1) 大切にしたい景観の比較

好きな「ところ」または「景色」としてイメージ再生された要素の数は盛岡685個、ダルムシュタット228個であった。これらのイメージ再生百分率を縦軸に、再生順位を横軸にとり、大きい順に示すと図-1のような対数曲線に近いグラフを描き、共通にイメージされる要素は少数要素に集中する。そこで図-1に示されるパーソナル・エレメントを除いたセミ・パブリック・エレメント以上をその特性上注目することにし、その要素を「ところ」と「景色」に分類してグラフ化すると、図-2（「ところ」）、図-3（「景色」）のようになる。「ところ」としてイメージ再生されたダルムシュタットのイメージ再生百分率、イメージ再生要素数は、盛岡での値を上回る結果となった。このことは、西ドイツの地方都市における集住と日本の地方都市における疎定住という居住形態の相違によるものと推察される。また、逆に図-3に示されるように「景色」としてイメージ再生された要素は、イメージ再生百分率、イメージ再生要素数ともに盛岡の値がダルムシュタットの値を上回っている。このことは、盛岡が蔵風特水の典型であり起伏のはげしい変化に富んだ地形からなっていることと、ダルムシュタットの市域が、東から西方向にかけてゆるやかな傾斜をなしているものの、起伏はみられず平坦地（platten land）となっていることのためであると考えられる。イメージ再生された要素に注目して人文的要素と自然的要素に大別すると人文的要素の構成比率は、ダルムシュタットが盛岡より多くを占めていることがわかる（図-4）。このことは、ダルムシュタットでは、多くの広場を中心としたコンパクトなまちづくりが進められているためであり、一方、盛岡では、街全体が風景の中にとけ込むようなまちづくりこそ好ましいとされているまちづくりが推進されているためである。

## (2) 大切にしたい景観の変化に対する評価の比較

前項でイメージ再生された景観の中で最近10年

表-1 調査の内容

I. 大切にしたい景観について
Q1. **市(町)および市(町)周辺を好きな「ところ」または好きな「景色」（く（場所）から見た（様子））は何ですか。思いつくままに出来るだけたくさん具体的に書いて下さい。
Q2. Q1で書いたものの中、最近10年ぐらいの間に景観を見て、悪くなったと思われるものはありますか。その點を思いつく順序にすべて記入して下さい。
Q3. Q1で書いたものの中、最近10年ぐらいの間に景観を見て、良くなったり思われるもの（新しく生まれた景観を含む）はありますか。その番号を思いつく順序にすべて記入して下さい。
Q4. Q1で書いたものの中、これまでほとんど変化していないと思われるものはありますか。その番号を思いつく順序にすべて記入して下さい。
II. 改善したい景観について
Q1. **市(町)および市(町)周辺を改善したい「ところ」または改善したい「景色」（く（場所）から見た（様子））は何ですか。思いつくままに出来るだけたくさん具体的に書いて下さい。
III. その他、**市(町)の景観についてご意見等ございましたら、ご自由にお書き下さい。

表-2 回答者の個人属性

	盛岡市	ダルムシュタット
性別		
男	332	42
女	273	43
合計	605	85
在住年数		
20年未満	265	36
20年以上	340	49

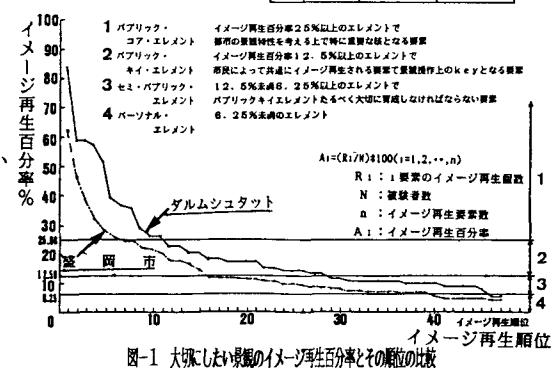


図-1 大切にしたい景観のイメージ再生百分率とその順位の比較

間に悪くなつたと言える景観、良くなつてきていると言える景観、変わらないと言える景観を好きな「ところ」と好きな「景色」別に集計するとどの項目にも同じ要素が出てくることがあり、このままではこれらの要素に対し市民が良くなってきたとイメージしているのか、あるいはその逆であるのか判断できない。そこで、これらの景観に対する判断の基準を示す解析（比率の差の検定）を行ない表-3に示した。良くなつたと言える要素では、

盛岡においては、人造湖、都市基幹公園、菜園、新しく造った各種文化的施設、モール化した商店街、新視点場からの象徴的山への仰望など各種文化的施設をはじめとする“新しく作られたもの”があげられる。ダルムシュタットにおいては、森、庭園などの緑地空間があげられているがその要素は少ない。一方、悪くなつたと言える要素では、盛岡においては、

市中心部からの周囲の山並への仰望があげられている。ダルムシュタットでは、悪くなつたといえる要素はあげられない。変わらないと

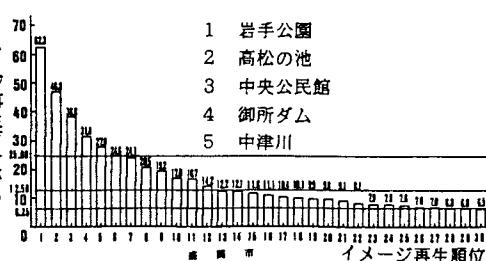
言える要素では、盛岡において、神社仏閣等歴史性のあるものがあげられ、ダルムシュタットにおいては、小丘、庭園などの緑空間、教会城跡などの歴史性のあるものがあげられている。

### (3) 改善したい景観の比較

改善したい「ところ」としてイメージ再生された要素をグラフ化すると図-5のように示される。イメージ再生された要素は、ここでもダルムシュタットがイメージ再生百分率、イメージ再生要素数において盛岡の値を上回る。ダルムシュタット、盛岡において駅舎および周辺が改善したい「ところ」として共通にイメージ再生されており都市基盤施設である駅舎周辺の整備が求められている。ダルムシュタットにおいては、広場がイメージ再生されており、盛岡においては、街路がイメージ再生されている。ここにおいても、集住と疎定住という居住形態の相違が本質的に関係していると思われる。なお、改善したい「景色」としてイメージ再生された要素はなかった。

### 4. むすび

ドイツの地方都市と日本の地方都市について「大切にしたい景観」と「改善したい景観」について比較分析してきたが、「大切にしたい景観」、「改善したい景観」ともかなり違うということがわかった。今後、これらの分析結果をもとに日本の地方都市の個性の育成策を考えていきたい。  
参考文献1) 安藤昭、五十嵐日出夫、赤谷隆一：都市化的展開と



1 岩手公園

2 高松の池

3 中央公民館

4 御所ダム

5 中津川

1 Mathildenhohe	6 Marktplatz
2 Luisenplatz	7 Jagdschloß Kranichstein
3 Schloß Kamplex	8 Rosenhohe
4 Herrengarten	9 Piazza (Stadtkirche)
5 Orangeriegarten	10 Oberwaldhaus
11 Woog	

図-2 好きな「ところ」としてイメージ再生された要素

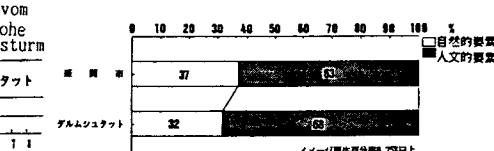


図-4 自然的要素と人文的要素の構成比

表-3 大切したい景観の割合における順位比較

	盛岡市	ダルムシュタット
よくなったといふ要素	Q3>Q2 Q3>Q4	渋所ダム 渋立博物館 渋田坂 渋立伊勢原 渋田ダム 渋野 渋町
変わったといふ要素	Q2>Q3 Q4>Q3	大庭寺 明治城～岩手山 岩手山 福光寺 城跡
よしとったといふ要素	Q2>Q3 Q4>Q3	岩手公園 八幡宮 夕張温泉～岩手山 北山（寺尾部）
ながつたといふ要素	Q2>Q3 Q2>Q4	岩手公園～岩手山

Q2:最近十年間で悪くなつたといふ要素  
Q3:最近十年間で良くなつたといふ要素  
Q4:最近十年間で変わらぬといふ要素

比率の基の検定（危険率5%）

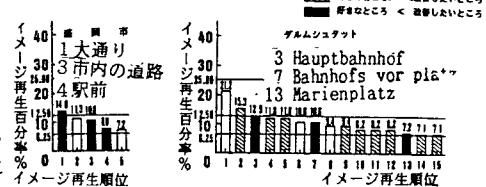


図-5 改善したい「ところ」としてイメージ再生された要素